

第2回（仮称）江東区公園マスタープラン策定委員会 議事録（要旨）

日時	令和8年7月8日（水） 14時00分～ 16時00分
場所	江東区文化センター 4階 第2、3会議室
出席者	<委員> 荒井 歩 （東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 教授）【委員長】 木下 剛 （千葉大学大学院 園芸学研究院 教授）【副委員長】 伊藤 弘 （筑波大学大学院 芸術系 准教授） 小島 郁子 （プレーパークこうとう） 中安 敬子 （特定非営利活動法人マザーツリー自然学校 理事長） 三村 和子 （公益財団法人東京都公園協会 木場公園 公園長） <委員（区職員）> 炭谷 元章 （政策経営部長） 山崎 岳 （危機管理室長）【欠席】 堀田 誠 （こども未来部長） 清田 光晴 （土木部長） 山田 英典 （土木技術担当部長） <事務局> 土木部河川公園課 古木課長、小塊係長、田野倉、松井、吉田 <傍聴人> 0名
次 第	議題 （1）地区別公園利用者ニーズ調査について （2）第1回策定委員会における意見等について （3）骨子について （4）今後のスケジュールについて （5）その他
配付資料	・次第 ・委員名簿 ・資料1：地区別公園利用者ニーズ調査について ・資料2：第1回策定委員会における意見等対応表 ・資料3：公園マスタープラン骨子 ・資料4：今後のスケジュール ・参考資料1：地区別公園利用者ニーズ調査集計結果 ・参考資料2：地区別みどりの満足度 ・参考資料3：施策の体系整理 ・意見等回答様式

開会

次第1 議題

【議題1：地区別公園利用者ニーズ調査について】

事務局

（資料1を説明）

委員

プレーパークに関する設問では、常設のプレーパークを求める意見が多かったが、資材置き場の設置な

ど考慮すべき事項がいくつかあり導入のハードルが高い。都立公園に大きな資材置き場等を設けて常設型プレーパークの導入を検討する可能性はあるのか。

事務局

都立公園については、東京都の管理となるためお答えできない。区立公園でいえば、都市公園法に基づく設置管理許可制度を活用し、建物を設置することは可能である。

委員

都立戸山公園はプレーリーダーハウスという建物を設置しており、都立公園でも設置している例はある。

副委員長

最後に示している大きな方向性に賛同する。一方で、Q 4 の公園への関わり方についての結果では、地区ごとによりかなり差が見られる。区全体の方向性として区民協働での公園づくりを推進することは良いが、地区ごとに温度差があるため、地区によって区民協働に意欲を示すかは差があるだろう。関心の低い地区は関心を高めることから始めるなど、地区の差を踏まえた対応を行う必要がある。

事務局

ニーズ調査の結果の差をいかに地区別計画に活かせるかが重要になると考えている。また、調査ではプレーパークとみどりの子育てひろばと連携して実施したため、幹事会においては、ミニイベントを実施した公園とそうでない公園で結果に偏りが見られるのではないかという意見があった。これに対しては、地区別ニーズ調査が、過年度アンケートにおける身近な公園の新たな使い方に関する部分について深堀を行うための調査であったという点をご了承いただきたい。

委員

地区によって条件やアンケート回収率の差があるため、その差を埋めるように、今後も追加で意見を取れると良い。過年度のアンケート調査において、様々な使い方の要望があったと思うが、回答者全員が同じ機能を求めているわけではない。そのため、クロス集計を行い、どの機能がトレードオフなのかを確認できると今後の公園群の考え方にも生きていくと思う。

【議題 2：第 1 回策定委員会における意見等について】

事務局

(資料 2 を説明)

意見等なし

【議題3：骨子について】

事務局

(資料3を説明)

委員

4ページにあるとおり、区立公園を3タイプのいずれかに分類するイメージか。重なるタイプもあるのではないか。また、ボール遊びができる公園やプレーパークについて、どのタイプが役割を担うのか。整備できる公園は限られていると思うが、どういった公園に整備するイメージか。

委員

機能特化タイプで想定される公園の中で、インクルーシブ遊具のある公園とあるが、近年は、遊具を入れる際に、ユニバーサルデザインのものも多く導入されている。今後の公園整備では、機能特化タイプの公園のみにインクルーシブ遊具を導入するのか、あるいは、全ての公園に導入を検討していくイメージなのか。

委員

現在、にぎわいタイプにあたると思われる公園でみどりの子育てひろばを開催している。理由としては、人通りの多い場所で開催することを重視しているためである。一方で、みどりの子育てひろばの特徴を踏まえると、機能特化タイプの公園で実施する取組とも捉えられる。特に小さな公園については、機能特化タイプとしてどのように分類し、どのように活用していくイメージなのか伺いたい。

事務局

タイプ分類に関して、にぎわいタイプは、民間活力の導入が望める公園や区外からの来園者も見込める公園を想定している。ボール遊びができる公園は多目的に遊べる広場が求められるという観点から、地域の顔タイプに当てはまると考えている。機能特化タイプについては、子育てや農体験など、にぎわいタイプや地域の顔タイプで補い切れない機能を補完する公園として分類することを想定している。面積規模で考えると、にぎわいタイプは大規模、地域の顔は中規模、機能特化タイプは小規模公園とすることで検討している。

委員

実際に各タイプに公園を当て込んだ際に、みなさんが納得できる整理ができるのかイメージがわからない。2つ以上のタイプに重複する公園もあるのか、あるいは、必ずいずれか1つのタイプに分類するのかによって、整備方針が変わってくると思うが、そのあたりをどのように整理するのか。

事務局

にぎわいタイプと地域の顔タイプの区切りについて、包括関係があるのかを含めて事務局においても議論している。現時点では、にぎわいタイプと地域の顔タイプはいずれかに分類する考えであり、この2つのタイプを中心として公園群を考えていく想定をしている。地域の人口構成や公園規模、立地、地区の特徴を踏まえたうえで、区民から見ても違和感のないような公園タイプ分類を検討し、地区別計画を作成していきたいと考えている。

委員

公園マスタープランは他自治体でも策定していると思うが、公園群を作って運用している自治体があれば、参考になるため教えて欲しい。

事務局

杉並区の公園マスタープランで近い方針を立てている。今後ヒアリングを行い、課題や取り組み方針を参考にしたいと考えている。

副委員長

タイプ分類については、どうしても重複する部分が出てきてしまうと思うが、にぎわいタイプと地域の顔タイプの決定的な違いとしては、にぎわいタイプがPark-PFIのように民間事業者が入ってきて、まちづくりと連携しながら魅力あるサービスを提供するものであり、地域の顔タイプでは、地域コミュニティが主導して、公園づくりを進めていくイメージであるが、このような認識で間違っていないか。このようにわかりやすい視点で整理すると区民にも伝わりやすいのではないか。

事務局

ご認識のとおりである。

委員

公園タイプと公園種別や求める機能のマトリクス表を作成するとイメージしやすいと考えている。それぞれのタイプ分類をする際の条件を整理すべきである。機能も役割分担と書くと公園と機能が一对一のように捉えられるため、補完し合うという表現の方が良いのではないか。

委員

公園群の中に地域の顔タイプが複数ある地区もあると思うが、その場合は、どのように扱うのか。

事務局

公園群の中に、複数の地域の顔タイプがある場合は、中心となる公園を定めた上で、その他の地域の顔タイプは機能を補完する役割とするなどの対応が想定される。

委員長

にぎわいタイプや地域の顔タイプの公園は、維持管理体制にも関わってくる。Park-PFIか指定管理かの違いでも区民ニーズへの対応も変わってくる。また、機能の「補完」は大切に、地域で求められていることの補完を行っていけるように組み立てていくことが必要である。

委員

機能特化タイプにおける農体験ができる公園の整備は進めて欲しいと思うが、既存の区民農園等の農作業ができる施設とは別の位置づけになるのか。区民農園と公園での農体験の棲み分けをどう整理するのか。

委員

地域の顔タイプには多目的広場が含まれると記載があるため、砂地（ダスト舗装）の公園と思われるが、機能特化タイプの公園であれば土の地面の公園にすることなど、公園の設計自体から変わってくることも想定されるか。

事務局

江東区には4つの区民農園があり、そのうち2つで指定管理による管理を行っている。深川地区には区民農園がなく、広い土地があれば新規の農園も整備できるが、現状では、既存の公園を活かした取組を進める必要がある。加えて、区民農園は抽選に当たった人しか利用できないこと、倍率が高いことが課題である。誰でも使えるという観点から農体験ができる公園の整備は大切だと考えている。

また、グリーンインフラの拡充という目標があるように、土の舗装も検討していきたいと考えている。

副委員長

グリーンインフラの話が出たが、雨水浸透以外にも様々な機能があるため、グリーンインフラにおいても各機能を分類しておき、それぞれの公園の特性を踏まえ、整備する機能を検討することも考えられる。また、ワークショップは地区ごとに行うのか、あるいは、公園群ごとに行うイメージか。その際、ワークショップの中で公園タイプの分類を決めていくのか、あらかじめ行政が決めておくのか。

事務局

グリーンインフラの機能分類については、今後整理していく。また、杉並区が実施している公園群ごと

のワークショップを参考に、公園群で行いたいと考えている。公園タイプの分類については、あらかじめ事務局で案を示し、それをベースにワークショップで議論することを想定している。

副委員長

ワークショップでは、ニーズが相反することもある。地域住民の合意を取れるようなワークショップをしっかりと行い、行政の押し付けでなく、地域で決めたということが大切である。

事務局

特にボール遊びに関しては、地域における合意が必要だと考えている。合意を取れるようなワークショップの実施手法などを検討していく。

委員長

国においても公園をみんなで育てていくことを重要視しており、ワークショップによる公園づくりは野心的な取組であるため、行政がビジョンを持って進めることが重要である。ワークショップに参加した区民が公園に対する苦情を言って終わりではなく、前向きなワークショップになるよう、ワークショップの実施目的を整理したうえで、地区ごとに前提条件の整理は重点的に行うべきである。

委員

公園整備の流れについて、公園群単位の改修と小規模改修の棲み分けをどう考えているか。

事務局

全ての改修を同時に実施することは難しいため、公園群としては5園程度を対象に改修をすることを想定している。そのため公園群の中にあっても整備の対象とならない公園もある。公園群単位では、公園の機能の再編、分担などを行い、小規模な改修では安全性や利便性の確保を図る補修を予定している。

委員

区民のボール遊びに対する要望が高いことを感じている。本マスタープランが完成すれば、すぐにボール遊びができると考える人もいるが、地域ごとのワークショップを実施したのちに整備を行うとなると、地域によっては実現がかなり先の話になるのか。

事務局

マスタープランの策定後すぐにどの公園でもボール遊びが可能になるということではなく、地域での合意をとったうえで、可能な公園を増やしていく必要があると考えている。そのため、公園群の整備を待つと、実現がかなり先になる地域も出てくるため、プラン策定後の新たな取組として、地域の顔タイプ

のうち、ボール遊びを可能とする公園の候補を対象に、見守りをする支援員の配置等の試行的な取組を検討している。試行実績を踏まえ、後に公園群のワークショップでの議論を行い、機能分担を行う想定でいる。

委員

プランの策定において、公園タイプの分類を行う際には、ボール遊びができる公園の候補は見えてくると認識している。小規模な補修や改修を行っていく段階で、候補として整理できた公園については、すぐにでも整備を進めるべきではないか。

委員

江東区全体で、どこに公園機能が配置されているのかを整理したほうが良い。防球ネットに囲まれた公園は区内に7園あるが、新たにボール遊びができる公園を検討するにあたっては、試行的にソフト導入を行い、その後地域で騒音問題等が起きなければハード整備を行うというような段階的な導入が必要だと考えている。そのため、地区別計画を検討していく段階で、まずは地区ごとの機能整理を行う必要がある。

副委員長

早く整備ができるところはパイロット事業的にできると良い。特に要望が高く、合意が取れている公園があれば、先行して整備を行えるだろう。

事務局

高いフェンスが整備されている公園についてボール遊びを可能とすることが考えられる。区民の合意が取れている公園があるのかについては、今後確認する。

委員

ボール遊びがどの程度の遊び方を指すのか。深川公園のように、防球ネットに囲まれたエリアで毎週野球をやっている公園もある。本格的なスポーツの試合ができる公園を指すのか、やわらかいボールでの遊びを指すのか、どのレベルを想定しているか。

事務局

やわらかいボールの公園利用は現状においても可能であるため、硬いボールを安全に使える場所を創出することを想定している。

委員

本格的に硬いボールを使用した試合をする場合は、球場を使った方が良いと思う。少年野球の練習程度なら、ボール遊び場で可能となるようであれば、どの公園では、どの程度までのボール遊びができるのか、利用者にとっても棲み分けが難しいように思う。

委員長

他自治体でも上手くいっている自治体は少ない。ボール遊びができる公園づくりを実現していくためには、どのような取組を進めるとよいのか公園マスタープランで示す必要がある。

また、地区別計画における方針は、区で定められている方針なのか。

事務局

みどりの基本計画における地区取組方針を踏まえたものとしている。

副委員長

地区別公園利用者ニーズ調査では、地区別の分析をしているため、地区別計画にはみどりの基本計画に加えて地区別公園利用者ニーズ調査の結果も盛り込んでいけると良い。

委員

3ページにあるとおり、公園のポテンシャルを最大限発揮させるための視点が多様に出てきている。江東区は南北で特徴が異なるため、基本方針が各地区において、どのように具体化できるのかを考えると良い。整備方針について、“にぎわい”という言葉が当初の方針からあったが、周辺飲食店とのタイアップなどもあり得るのではないかな。こどものためだけの公園でなく、大人のための公園があっても良い。基本方針と地区別計画の関連性を次回の委員会までに整理できると良い。

委員長

ニーズ調査を行っているため、その結果を計画に反映する必要がある。ニーズ調査の中で、公園づくりから考えたいという意見が多かったが、何か問題を抱えているからそのような結果となっている可能性も考えられるため、その点を踏まえて、マスタープランを検討して欲しい。

また、管理運営方針について、大がかりなものだけでなく、地域の民間事業者と連携する視点もあり、維持管理の方法は様々考えられる。視野を広げて維持管理を考えつつ、経済面も考慮しながら検討してほしい。

【議題4：今後のスケジュールについて】

(資料4を説明)

委員

水辺の公園魅力向上プランの作成とあるが、公園マスタープランとの違いは何か。

事務局

受託者が企画提案の中で提案したものになる。江東区は水辺の公園が特徴であり、水辺の公園に特化して水辺の魅力を伝えていくような冊子を作っていくイメージである。また、マスタープランで示した内容を踏まえて、情報発信のツールとして使っていきたいと考えている。

委員

水辺の公園とは何をイメージしているか。港湾を含むか、それとも親水公園のみが対象か。

事務局

河川や運河を含め、水辺に面した公園を想定している。

委員

公園群に加え、親水公園等がネットワークとして機能することを想定し、どのように整理するのか今後検討してほしい。

【議題5：その他】

副委員長

多くの自治体において、みどりの基本計画を策定して終わることが多い中、江東区では、公園マスタープランを策定するとともに、地区別のニーズ調査やワークショップの実施も検討しており、独自性があると考えている。プランを策定して終わりとせず、区民の要望をしっかりと踏まえ、良い公園マスタープランを作成してほしい。

委員長

公園の利用者からの要望は多岐にわたることが多い。しかし、利用者の意向を汲み取るだけでは区の総合的な方針を反映した計画が立てられなくなってしまう。そのため、事務局でしっかりと大局的なビジョンを整理し進めて欲しい。計画の意図が伝えきれず、中・長期で積み重ねてきた計画が振り出しに戻りかねない事例も起きかねない。また、今回示された管理と運営の方針については、かなり先駆的な取組になると思う。みんなの公園になるよう利用者および庁内関係者など多方面からの意見を汲み取りつ

つ進めて欲しい。

事務局

(次回に向けての事務連絡等)

委員長

以上を持って、第2回（仮称）江東区公園マスタープラン策定委員会を終了する。